

令和5年度 第3回忠岡町障害者施策推進協議会 要録

日 時	令和6年1月16日（火） 午前10時から午前11時5分
会 場	町役場本3階 研修室1・2
出席者	北野委員（会長）、石原委員、雪本委員、松阪委員、花野委員、佐竹委員、 亘委員、森委員、藤木委員、杉本委員、明石委員、野口委員、塩谷委員、 泉元委員
町側出席者	杉原町長、二重教育部長、谷野健康こども課長、石本学校教育課長、森野教 育みらい課長、藤原地域福祉課長、畑地域福祉課主査、堀井地域福祉課主事 （株式会社ぎょうせい）今中、安井
議題	1. 忠岡町障がい福祉計画（第7期）障がい児福祉計画（第3期）素案 2. その他
配布資料	資料1 忠岡町障がい福祉計画（第7期）障がい児福祉計画（第3期）（素案）に対する パブリックコメントの募集 資料2 サポートブック（案）

協議会開催にあたり、北野会長より挨拶を頂戴した後、堀井地域福祉課主事より本日の議題について説明を行う。

（議題1）忠岡町障がい福祉計画（第7期）障がい児福祉計画（第3期）素案

事務局より、資料「忠岡町障がい福祉計画（第7期）障がい児福祉計画（第3期）（案）」を用いて説明が行われた。

質問及び意見交換の概要

（委員）障がいや少子化、高齢化について、循環型の社会として全体で考えて行ってほしい。国は目標を立てても、各行政に投げっぱなしのように思える。

（会長）地域として包括的、重層的な支援が必要。12ページにもあるように、町の人口は減少しているが高齢者の割合は増加し、若者の割合は減少している。昨今はどの

自治体も財政が苦しいが、知恵を絞って取り組んでいかなければならない。

(委員) 障がい児から障がい者として成人になると、その途端に作業所からの帰宅時間が15時や16時となる。事業所数を増やすだけでなく、充実した社会生活を送るために、成人以降の過ごし方や過ごせる場所を考えてほしい。土日祝日はお休みの事業所も多いと思うが、余暇をどのように工夫するかを問われていると思う。工賃の向上や事業所数の増加といった量も大切だが、質の充実も大切にしたい。また、近い将来に南海トラフ地震が来るといわれていることや先日の震災発生もふまえて、災害の備えとして、障がいのある方がどのように避難するか等を改めて考えていかないといけないと思う。その他質問としては、43、44ページの表の単位として「人日/月」という意味を教えてください。

(事務局) サービスの支給決定は「ひと月あたり〇日」という決定であり、支給日は一人一人異なる。「人日/月」という単位は、その月において各利用者の合計利用日数。

(委員) パブリックコメントの募集もあるため、解説が必要なのでは。

(会長) わかりやすい工夫を。また明石委員が仰ったように、6から18歳は学齢期で大きな変化の時期。放課後デイに行っていた児童は学齢期が終われば就労の年齢だが、放課後デイよりも時短で帰ってくるため困る親御さんもいる。臨機応変な対応を考えていかなければならない。

(委員) 病院では保証人を求められることがあり、頼める親族や身近な人がいないと入院ができない。

(会長) 病院の他には、公営住宅も保証人がいないと入居できない。民生委員は保証人になれないため、後見人を選任してほしいと言われることも。後見人の選任は親族による申請が必要であり、申請ができない場合は行政が代わって手続きをすることが可能だが、手続きが大変。

(委員) 社会福祉協議会、行政で協力して取り組んでほしい。

(事務局) 社会福祉協議会では、お金の管理等の日常生活自立支援事業は行っている。

(会長) 日常生活自立支援事業は金銭契約のため、本人が契約しないと使えない制度。しかし自身で契約できない場合もあり、その次の段階になった時のことも考える必要がある。

(議題2) その他 パブリックコメントについて

事務局より、資料1「忠岡町障がい福祉計画(第7期)障がい児福祉計画(第3期)(素案)に対するパブリックコメントの募集」を用いて説明が行われた。

質問及び意見交換の概要

(会長) 必要な箇所には用語解説を入れ、意見を募る。

(議題2) その他 サポートブックについて

事務局より、資料2「サポートブック(案)に対するパブリックコメントの募集」を用いて説明が行われた。

質問及び意見交換の概要

(委員) 今まで個々でしていたことを町としてこのような形にして頂き、感謝している。学校や保育園の先生方との関わりや絆になると思っている。障がいのない子どもにも使える内容。

(委員) 学校にも所定の記録様式があるが、このサポートブック(案)はそれよりも詳しい内容。しかし学校所定の記録様式を積極的に活用するのは前向きな保護者で、現場では記録様式を卒業時に保護者に引き継ぎもしているが、卒業後の就労先や進学先に提出しない保護者もいる。そのような前向きでない保護者については、行政でのサポートが必要。

(委員) サポートブック(案)の内容はいいものであるが、学校所定の記録様式やその他にも同様の記録資料は何種類もあり、学校と行政で足並みを揃えて、やそれらを統合すべき。また先程質問が出た44ページの表の「人日/月」という単位については、わかりやすく「人×日(%)」とするのはどうか。明確に伝わるのが大切。

(会長) 共通様式を共同で作っていけるように進めてほしい。行政含め、全体で展開を。

次回スケジュールについて

堀井地域福祉課主事より、第4回協議会は令和6年3月8日 10時より開催予定である旨をお伝え。

以上